

県民の最後の砦としての役割

民間病院の経験が多い私にとって、県立病院の経営をどう考えるかは大きな課題でした。滋賀県立成人病センターの時代、悪性新生物(がん)・循環器系疾患・脳神経系疾患を中心とした高度医療・先進的医療で県民の最後の砦となるべく努力されてきました。民間病院のように収支優先でなく、不採算や全県医療も含めた県民のための病院に存在意義を求めてきていました。

ただ、時代は変わり、経営的観点も考慮しつつ、大学や他病院との病病連携、地域医療との病診連携を強化しつつ、

総合病院として県民のニーズに応えることが最後の砦としての県立病院の役割になってきています。

経営改善は、支出を減らし収入を増やすことが基本です。ただ、このバランス感覚が経営改善のプロとしての真骨頂です。薬価や診療材料の節約に取り組むとともに、手術支援ロボットの導入、がんゲノム治療の連携、新型コロナウイルス感染症への対応など、この方針により進めてきたものです。新技術や新しい医療の導入、社会状況への臨機の対応を病院の経営状況とバランスをとりつつかじ取りをしていくことが、事務局長として私が実現してきたこととなります。

楽しい裏の顔

経営改善という目標実現のためには、厳しさも必要となります。ただ、自分自身の素顔としてはその逆ではないかと思えます。経営改善を行うのが表の顔とすれば、本来の自分は裏の顔になるのかと思えます。

裏の顔としては、アルコールが大好きで、食べること・話すことも誰よりも好みます。また、健康診断の結果は必ずしも良好なものではない普通の中年の顔を持っています。また、誰とは言えませんが、私の体形や顔を見て可愛いと言ってくれる女性職員もあり、京都の自宅からスーパーカブで通勤していることを面白がっている職員もいます。

あとは、過去の病院における民間経験から知り合いが多く、多方面・多職種の信頼できる仲間がいます。この仲間の知識・経験をもとにした情報が私を支える重要な役割を果たしてくれています。

趣味は、アウトドア、バイクなどです。今年も北海道にツーリングに行ってきました。



北海道にて

進むべき道

私が赴任して5年、毎月赤字から毎月黒字に経営改善できたとは言え、累積赤字が非常に多いのは事実です。また、一昨年50周年を迎えた病院としての歴史もあります。このような状況の中、県立総合病院としては、「どうなっていくか」ではなく、「どうしていくか」と考えていくべきだと思います。

新しい感染症への対応、救急の拡充、小児・周産期医療など、県民のニーズは今後も変わっていくことが予想されます。時代は変わってゆくものです。病院自体も小児保健医療センターとの統合や地方行政独立法人化の可否などの

課題を抱えています。病院は医師をはじめとする医療従事者が担っていますが、対局には患者さん、すなわち県民の存在があります。

時代が変わり、県立病院としての役割が変わることがあっても、県民のための病院であることが県立病院としての存在意義であることは変わりません。県民のニーズ、要望を正しくみ取り、その方向へ進めていくことが我々の使命だと考えます。

経営改善に終わりはありません。今後も、新しい時代に即応した経営改善に取り組むことが我々事務職員の「どうしていか」につながるものと考えます。

関係者全員の前向きな姿勢が大切

病院においては、投薬や注射、処置や手術などが行われますが、患者さんご自身の治癒力や回復力が無ければ、良い結果に繋がりません。診療報酬制度では、治療が長引くほど収益が悪化していく仕組みになっていますので、患

者さんご自身の治癒力や回復力を最大限にする取り組みが経営改善には欠かせません。

治療への理解や食欲を満たす食事、療養環境の整備やご不安に耳を傾ける職員など、1日でも早くご自宅に戻って頂くよう、治癒または寛解、病状の安定への関係者全員の前向きな姿勢が経営改善には、最も大切なことと考えています。

PET-CT装置の更新とRIエリアの改修を行いました!

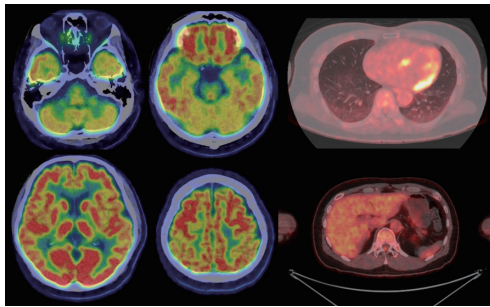
PET 検査は、放射性医薬品という薬剤を使用し、炎症や腫瘍の全身評価や認知症の評価などを行える有用な検査です。当院では、滋賀県初の半導体PET-CT装置を導入し、10月より稼働しています。合わせてRIエリアの改修も行いましたのでご紹介します。

①新装置による効果

新しく導入したGE社製の『DiscoveryMI-25』というPET-CT装置では、従来と同様の検査時間内に、体幹部を中心とした精密な撮影に加え、頭部から足先までの広範囲の撮影の両方が可能となり、多くの情報を一度に得ることが出来るようになりました。また、装置に半導体を用いているため、感度が高く、検査時に投与する放射線量を3割減らしてもPETもCTも従来よりも優れた画像を得ることができます。患者さん自身の被ばく低減にも効果があります。



新しく導入したGE社製の『DiscoveryMI-25』



当院で撮像した画像

②周辺設備の改修

投薬の後、検査まで長時間をお過ごしいただく待機室に専用の椅子を備え過ぎやすいように改修しました。また、付き添いの方への被曝を減らすために検査後に一定時間お待ちいただく観察室も今回の改修で整備しました。付き添いの方にはRIエリアの外でお時間までお待ちいただけます。



待機室専用の椅子

最後に、今年度からPET検査室より定期的に【PET News】を発行し、検査の内容や疑問、当院研究所で行っているその他のPET 検査の内容などをご案内しています。

滋賀県立総合病院研究所のホームページ (<https://www.pref.shiga.lg.jp/shigamed/>) にも掲載しておりますので、是非ご一読下さい。

滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号
電話077-582-5031(代表)

滋賀県立総合病院ホームページ

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/>



※本誌へのご意見や感想等をぜひお寄せください。

FACELがネット受付サービス

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/surveys/8124789265493085857>



〈院内紹介動画を配信中!〉

当院を支えるスタッフの仕事風景などを動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



当院ホームページURL

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/center/322221.html>

